

# 農業委員会 だより



## 「純愛の君」

(農)東大社の三浦文雄さんが丹精込めて栽培するダリア。ハウスでは年内に3回採花できますが、14.5時間の日照を確保するため電照を使用。鮮やかな赤いダリアの品種は「純愛の君」(関連記事は4頁)。



## 新年のごあいさつ

由利本荘市農業委員会  
会長 佐藤 系 悦

新年明けましておめでとうございます。  
皆様には、日頃より農業委員会活動に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年初めに、当会が皆様のご協力を得ながら行った「農地及び農業経営等に関する調査」の結果は、近隣農家との会話や、圃場で農作業をしながら感じていたことが、はっきりと数字となって現れたものでした。規模縮小や農業をやめたいと考えている農家の3分の2は、農地管理の相手が決まっていない。このことは、今後、農業委員会の役割がますます重要になってくることを意味していると思います。今まで以上に委員が一丸となり、関係機関と協調しながら、先祖伝来の農地を後世につなげる努力をしなければならぬと感じております。

秋田県は、昨年3月に「第3期ふるさと秋田農林水産ビジョン」を策定し、将来の目指す姿を示しました。農業分野では、第2期で行った「米からの脱却」、「複合型生産構造への転換」をさらに進めて、四年後には農業法人数を現在の約1.5倍の850法人にし、担い手が取り扱う農地を10%増の83%にするという目標であります。市内の担い手からは農地の拡大は限界に達したという意見もあり、後継者の育成が急がれる現状を考えると高いハードルであると感じます。当会では今こそ、地域の話し合いが必要なのではないかと考えております。

さて、近年は異常気象が頻繁に起こるようになりました。昨年も全国各地が、集中豪雨や猛暑、地震、台風に襲われる災害の多い年でありました。本市でも、果樹や畑作施設などに被害を受けましたが、水稲は大きな被害を受けずに収穫を迎えました。結果は平年作を下回り、3割近い減収となった農家もあつたようです。原因はさまざまに言われていますが、天候には勝てません。私たちは、これまでの経験を基に農作物を作るプロであるとして、自負しながら、今後もより良い作物を生産したいと思えます。

『平成』と呼ぶのも残り4カ月、新しい元号がどのような漢字二文字になるのか気になりますが、気持ちを新たに、本年が災害もなく平穏で実り豊かな秋を迎えることと、皆様のご多幸をお祈りし、新年のあいさついたします。



# 農地と農業経営の意向調査にご協力をお願いします



## 1月11日までに回答を

農業委員会では昨年末に、10アール以上の農地を経営する農家と農地所有資格法人を対象に、「農地及び農業経営等に関する調査票」を送付しました。前年の調査では一部地域で対象者を抽出して実施しましたが、このたびは対象となる方全員の意向をお聴きするものです。調査票が届いた方は調査項目に回答していただき、1月11日までに返送してください。

## 3年後の経営を

### イメージして

前年の調査では、回答いただいた方の24%が規模縮小や農業をやめたいと考え、このうちの66%の方は農地を託す相手が決まっていないと回答しました。農業委員会としても驚きをもって調査結果を受け止めたところであり、こうした農地を荒廃させずに担い手農家に継承していくための話し合いが必要だと感じているところです。同時に、前年の調査では、農家の皆さんが何年先を見通して経営の縮小を考えているのかを判断できないという課題も明らかになりました。

そこで今年の調査においては、「3

年後の農業経営」をイメージしてご回答くださるようお願いいたします。このことにより、地域や集落において、「3年後には担い手の〇〇さん」この農地を集積しよう」といった話し合いを進められると考えたものです。今年の調査以後は、概ね3年ごとに同様の調査を実施する予定です。

## 農地を特定した

### 話し合いが重要

耕作しない予定の農地を担い手にまとめていくためには、経営縮小や離農を考えている方のお名前や農地の所在を明らかにして話し合いを進めることが重要になります。そのため今年の調査で示された意向は、「この人のこの農地はこの担い手に耕作してもらったらどうか」というように、農地所有者のお名前や農地の所在を含めて、集落等の話し合いの際に活用させていただく予定です。ご理解をお願いいたします。また、

農地を買い取りたい、借りたいなど規模拡大したいと回答した方の意向についても、話し合いの際に活用させていただきます。ただし、調査結

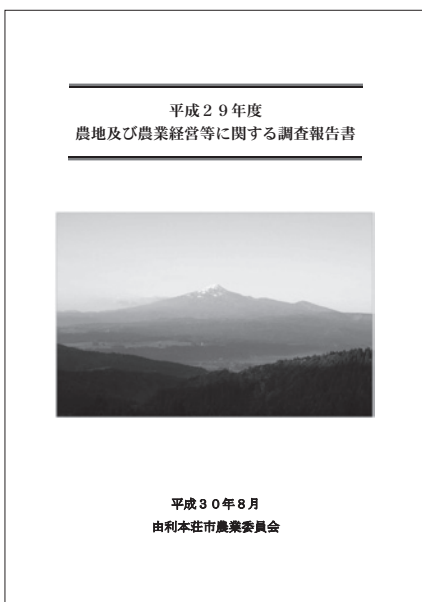
果をとりまとめ、市ホームページ等で公表する報告書には個人を特定する情報を掲載することはありません。

## 関係者の連携で

### 担い手に継承へ

農家の皆さんが出来秋を迎えたと同時に、次の耕作に向けて農地の相談が増えていきます。大切な農地を荒廃させずに担い手にどうつないでいくか。これは農地の所有者だけの課題ではありません。行政やJA、農業委員会等の組織が、担い手農家の皆さんの協力も得て考え合う課題だと思えます。この調査と話し合いにご協力をお願いいたします。

なお、一部の集落の皆さんには、農業委員や農地利用最適化推進委員が訪問して、調査票の配布と回収を行います。今後の農業経営等に関して相談がありましたらお寄せください。



平成29年度の調査報告書はこちら  
<http://www.city.yurihonjo.lg.jp/city/soshiki/c1614/7276>

# 農政転換への挑戦

由利地域東中沢 農事組合法人 東大社

代表理事 佐藤 隆 (64歳)



設立時期 平成30年2月  
 構成員 8人  
 経営内容 水稻32ha、大豆2.4ha、  
 そば4ha、野菜(ミニ  
 トマトなど)、花き(ダ  
 リアなど)



## ○法人を設立して

農事組合法人を設立したことで、構成員の会話が将来を見据えた建設的なものに変わったように思います。また、協力して作業をするなかで集落や仲間との「つながり」がよみがえってきたようで嬉しく心強く感じています。花やミニトマトの出荷作業に活気を添える「母さん」たちの

力も大きいと思います。

平成18年に集落営農組合を立ち上げたものの、後継者がいないなど課題も多く、集落営農にも限界を感じていました。集落から仲間がいなくなってしまう、いざれお祭りもできなくなり、先人たちが守ってきた農地も荒廃してしまう。このような状況下で、農地も集落も文化も残していくためにどうしたらいいかと考えた末に、昨年2月に法人設立に踏み出しました。

## ○経営状況

水稻は個々に区割りして、水回りや草刈りを構成員に任せており、他の集落からの農作業も受託しています。6haの酒米は齊彌酒造店に出荷。昨年からはそばの刈り取りと乾燥調整にも取り組ましました。

また、農閑期の収入確保のため、ハウスと露地で15品種のダリアを栽培しているほか、育苗ハウスを



利用してミニトマトにも取り組んでいます。

## ○課題と今後の目標

収量や経営面積を増やしたいと考えていますが、構成員が少なく人手が不足しています。それを補うためにも地域内外の仲間や法人と協力し、知恵を出し合おうという心意気で、



## 頑張る営農者

鳥海地域宮ノ下 真坂 重和 (46歳)

農家で生まれ育ち、農業高校、農業短大を卒業して森林組合に就職しましたが、父の病気をきっかけに37歳で就農しました。現在は水稻8・1ha、鳥海りんどう0.6ha、小菊0.3ha、そば0.5haを経営しています。稲作は主に私と妻、花きは母が担い、繁忙期には従業員を雇って収穫・選別に励んでいます。

就農当初の平成17年から取り組んでいる鳥海りんどうですが、盆前から彼岸に花が咲く時期を合わせるのが難しく、天候によっては同じ品種でもずれてしまうことがあります。

また、段数を5〜6段、花の長さを65〜80cmと規格を揃えなければなりません。デリケートな花ですが、目の覚めるようなブルー、白、ピンクとりどりの花が咲き誇る様子を見る

毎日が勉強と挑戦の連続です。日々を大切に一步一步前進していこうとする姿勢を若い世代にさらけ出すことにより、こうした思いが伝わっていくと信じています。

感動と勇気を与えてくれた金足農業高校野球部ありがとう！

(熊谷 正博委員)

喜びは何物にも代えられません。りんどうは仏花だと思われがちですが、女性に喜ばれますし時期を問わず部屋に飾って愛でてほしいと思います。経営規模を拡大したい気持ちはありますが、昔からの従業員も高齢化し、私自身も間もなく50歳。1日にこなせる作業量が低下しています。繁忙期の従業員確保が難しく、収穫と出荷が重なる花きだけでなく稲作の防除もおそろそかになり、悪循環になってしまっています。

子どもの部活動も昨年で一段落したので、今年の経営からは気合を入れ直して頑張りたいと思っています。そのためには1人でも多くの労働力確保を図り、稲作、花きともに収穫量の増大につなげていきたいと考えています。

(佐藤 崇委員)



人生にはいろいろな生き方、楽しみ方がありますが、どんなに経済力がある方でも自分の手で花や野菜を育てて楽しんでいきます。私も100坪のハウスで夏はミニトマトを、冬



# 生涯現役

大内地域牛寺

小林 周一 (79歳)  
ユリ子 (76歳) ご夫妻

農産物直売所ひまわり会がスタートしてから20年が経とうとしていきます。振り返ってみると、年間売り上げ1億円、20年間で30億円を超える売り上げが大内地域の私たちにいったということなので大変喜ばしく思います。これもスタート当時の町長だった佐々木秀綱さんや農協等関係者の方々の発想の素晴らしさのおかげだと、いつも感謝の気持ちでいっぱいです。

は暖をとって小松菜や春菊、アスパラ菜、わさび菜などの葉物野菜を栽培しています。私が生育管理と収穫を、苗づくりと出荷は妻が、というように役割分担して作業しています。野菜が毎日成長する様子を見るのは本当に嬉しく、励みになります。また、ひまわり会から1時間ごとに販売状況のメールが届くことも楽しみみです。私は平成11年から4年間ひまわり会の初代会長を務めました。63人の会員でスタートしましたが、二次募集を経て今では80人を超え、ますます活気にあふれています。出荷する品目や数量を制限していません。会員は野菜から加工品までさまざまな種類のもので出品することができ、お客さまも楽しみながら買い物していただいていると思います。

野菜の生産や出荷準備に追われ多忙な日々ですが、それが自分自身の心と体の運動になり、健康長寿につながっているのではないかと思っています。お客さまにはこれからもぜひ直売所に足を運んでもらい、新鮮でおいしい野菜をたくさん食べていただきたいと思っています。

(石井 勲委員)

毎日は大変。1ヶ月だと遅い。そんなあなたに

まとめて読める！  
週刊紙

# 全国農業新聞



週刊 月4回金曜日発行  
月700円、年8,400円  
(消費税込)

- 様々な問題に、じっくり鋭く、迫ります。
- 充実した経営情報と流通の現場情報を伝えます。
- 農地を守り、担い手を応援する農業委員会活動を伝えます。
- 地域を元気にする情報を提供します。

購読申込は農業委員会事務局または各総合支所産業課内庶務班まで。

## 農業者年金に 加入しませんか？

～老後の備えは国民年金プラス農業者年金で安心～

加入するとメリットがいっぱい！

- 少子高齢化に強い積立方式・確定拠出型
- 農業の担い手には保険料補助
- 保険料は全額社会保険料控除
- 終身年金で80歳までの死亡一時金あり
- 保険料の額は2万円から6万7千円まで千円単位で自由に設定できます
- 加入・脱退は自由

### 加入要件

- ①～③の全てに該当している方ならどなたでも加入できます
- ①年間60日以上農業に従事
- ②国民年金の第1号被保険者
- ③20歳以上60歳未満の方



こんな方におすすめ！

- 農業経営者の奥さん
- 農家の後継者
- 自営業の兼業農家
- 早期退職後に農業を始めた方 など

[問い合わせ]

由利本荘市農業委員会事務局 ☎0184-24-6259  
各総合支所産業課内庶務班  
JA秋田しんせい 各支店 農業者年金担当



# 農業にチャレンジ!

東由利地域館合新田 株式会社 たかはし畜産

代表取締役 高橋 将也 (31歳)

「誰かがやってってくれるんじゃないか?」。人生の夏休みを謳歌している最中に、集落を一望できる高台の神社から眼下に広がる田園風景を見て、先のように思ったことが就農を意欲した最初のきっかけでした。

この景色を維持し発展させていくためにはどうすればいいのか。他人に任せておけばいいと一瞬でも思ってしまった自分が不思議と情けなく思えてしまったのです。誰かに任せるといつても、農家の高齢化や経営規模拡大の限界を考えると簡単ではありません。やがて自分に関わることなら自分で何とかしなければいけないと使命感が沸き立ってきて、就農を決意しました。

幼かった頃、家族が農作業をする圃場が遊び場でした。自然な形で農業と接することが日常になっていた



JA秋田しんせい預託牧場にて

ため、就農することに抵抗はありませんでした。しかし、新たに何かを始めるアイデアがあるわけでもなく、家族が経営する水稲と和牛繁殖を継承し、規模拡大を目指していることを考えました。

私の家では耕畜連携を実践しており、水稲と畜産が密接に関連しています。田んぼからワラなどの牛の粗飼料資源を回収して畜産の飼料自給率を向上させたり、堆肥をはじめとする有機資源を水田に還元させたりして資源の好循環が成り立っています。それによって水稲の耕作面積を維持できるうえ、異なる両部門を手がけることにより、変動する市場動向に対し経営面のリスクを分散させることができると思っています。

農業経営は簡単ではないはずですが、私たち新規就農者は自家の経営は自分で守らなければいけません。同時に、地域を存続させるための役割も担っていると思っています。今は何もできない私ですが、周囲には経験豊富な先輩が大勢います。さまざまな面でご指導いただきながら地域のバトンを引き継ぐ一人として、成長していきたいと考えています。

(古閑 幸子委員)

## 地域の話

昭和59年、西目地域の圃場整備事業の着工を契機に「田の神」の石碑が建立された。碑には「五穀豊穡を祈念した先人遺風を承け永く農業に精励することを願う」旨が記されている。地元西目川の自然石に、「田の神」と刻んだインド産黒みかげ石をはめ込んだと伝わっている。



石碑建立後に毎年行われている田の神大祭は35回を数え、昨年11月にも地域の農業関係者が集い、出来秋に感謝した。

約470ヘクタールに及んだ圃場整備事業は平成7年に終了し、農作業の高度化・効率化を支えた。JA西目支店の敷地に建つ石碑は、収穫を終えた圃場を一望しつつ、豊かな水の源である鳥海山にも敬意を払っているようだった。



## 農業委員会

- ◆本 庁 (事務局)
  - TEL24-6258
  - 政 班 TEL24-6259
  - 農 地 班 TEL24-6260
  - FAX24-6396
- ◆各総合支所 (産業課内)
  - 矢島庶務班 TEL55-4957
  - 岩城庶務班 TEL73-2014
  - 由利庶務班 TEL53-2114
  - 大内庶務班 TEL65-2804
  - 東由利庶務班 TEL69-2116
  - 西目庶務班 TEL33-4614
  - 鳥海庶務班 TEL57-2205

### ● 広報委員

- 石井 勲・古閑 幸子・熊谷 正博
- 佐藤 崇・畑山留美子・佐藤 喜勝
- 齋藤 誠・佐藤 和子



## 編集後記

昨年は、金足農業高校野球部の活躍に農業者も高校生も、全国民が勇気と感動をもらい、最後まで諦めない精神が良い結果を生むことを学ばされました。一方で、豪雨、地震、台風、潮風害など多くの災害に悩まされた厳しい年でもありました。

元号が変わる今年こそは実り多い年であることを祈りたいと思います。広報委員はより充実した紙面作りに努力してまいりますので、地域の活動、イベント等ありましたら事務局までご一報お願いします。

(齋藤 誠委員)